

準V「よく頑張った」

浦添商ハンド 応援団が健闘ねぎらう



浦添商の選手が得点を決め、喜びを爆発させる地元応援団。1日、三重県津市のサオリーナ

【三重県で喜屋武研伍】

三重県津市のサオリーナで行われた全国高校東海総体女子ハンドボールの浦添商業―佼成学園女子(東京)の決勝戦。地元から応援団が駆け付け、選手らに熱烈なエールを送った。浦添商

の選手が得点を決めるたびに、パーランクーの音とともに、大きな歓声が会場に響き渡った。(1面)関連
点差が最大で6点開く劣勢の中でも、応援団は「ちばりよー」「流れはこっちだよ」と声援を送り続けた。後

半、浦添商に流れが傾き2点差まで迫った場面では、誰もが逆転を信じた。22―25の3点差で惜しくも優勝の機会を逃したが、橋口明歩主将の母、晶子さん(44)は「本当によく頑張った。良い経験になったと思う」と

選手らの労をねぎらった。ベンチメンバーの棚原志帆選手の父、革さん(43)は「(補欠ながらこれまで)よく頑張ってくれた。帰ったらおいしいご飯を食べさせないと」と目を赤らめながら、娘の成長を喜んだ。